

添付資料2 応力の状況等からの検討

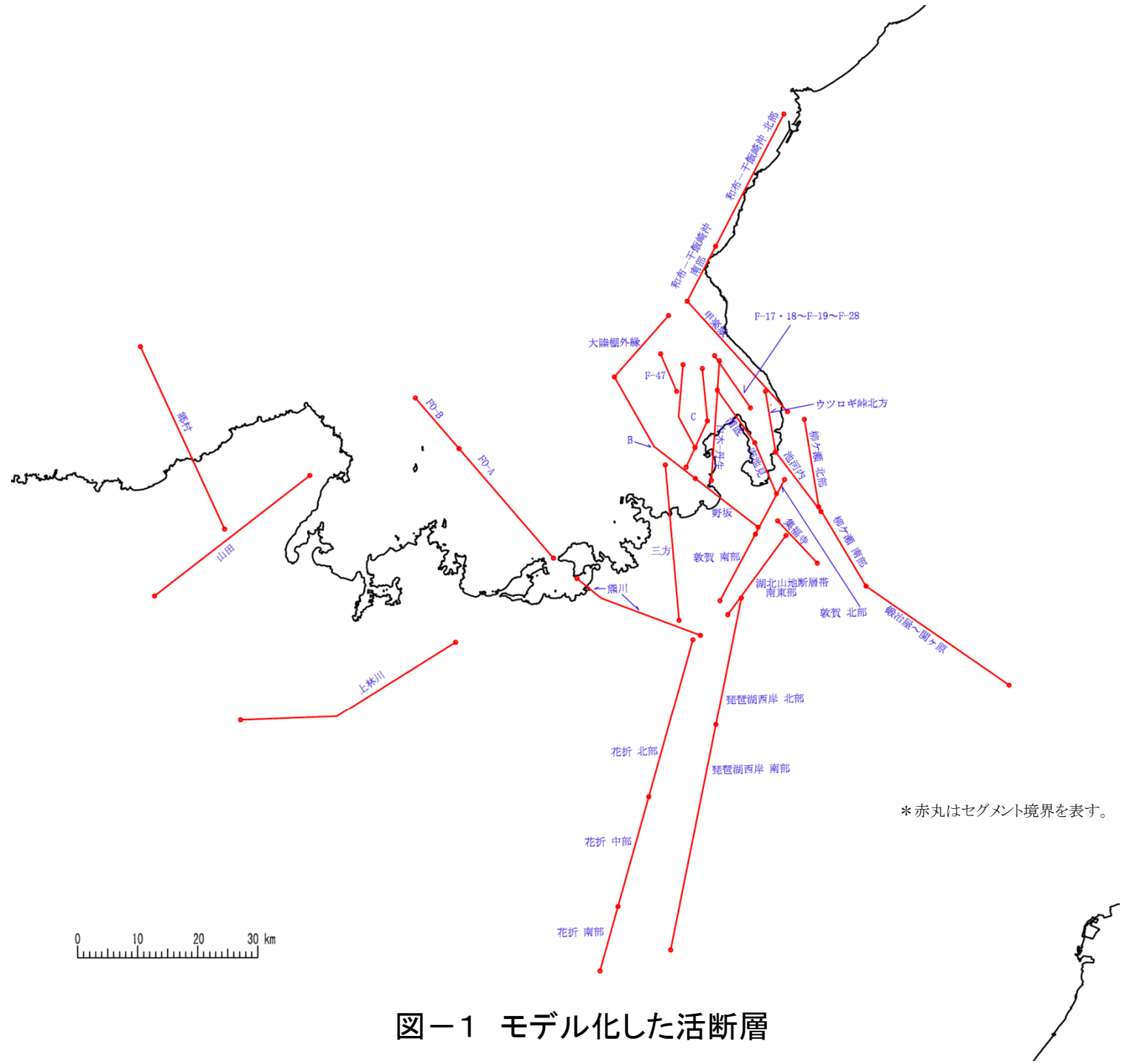


図-1 モデル化した活断層

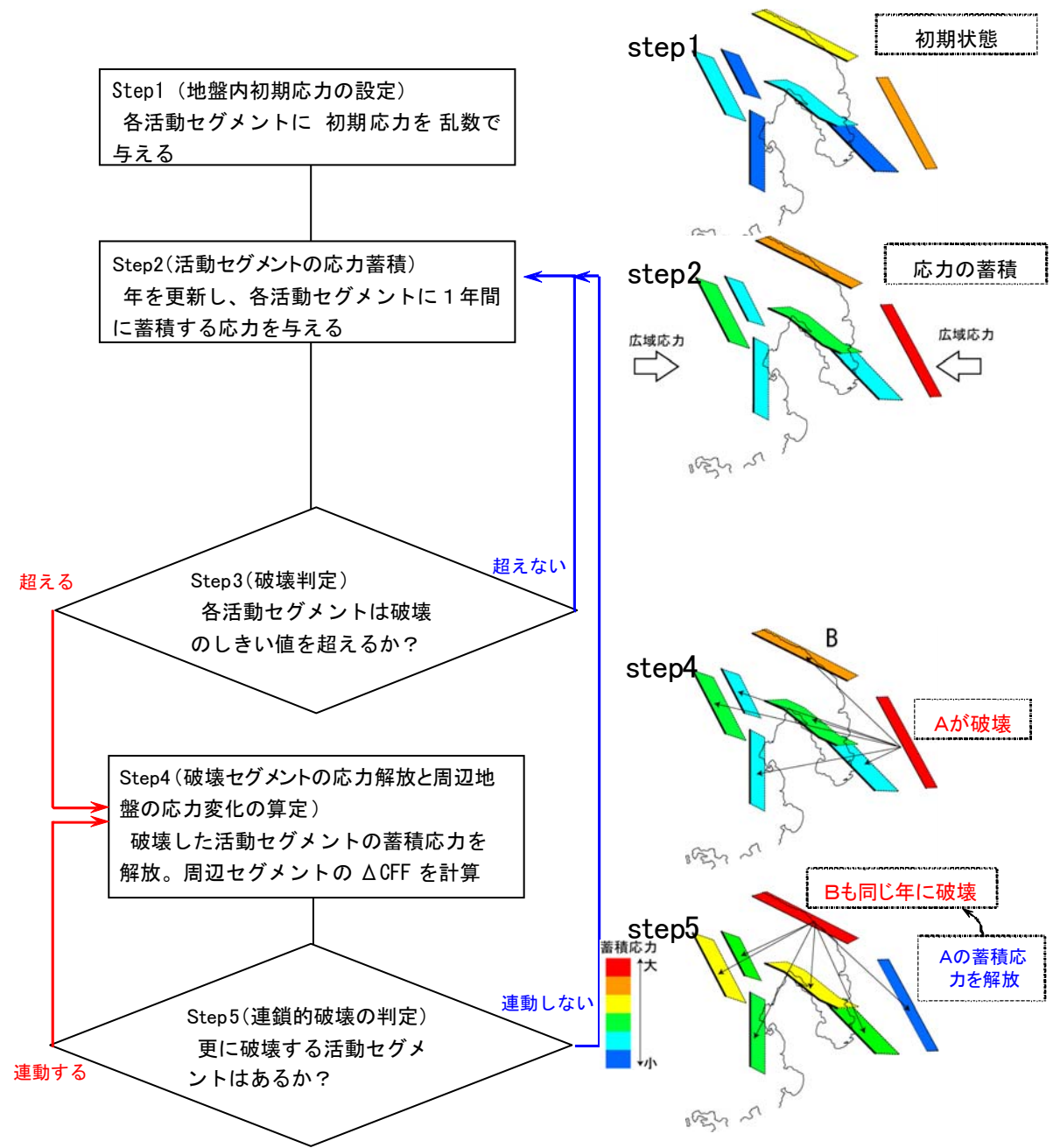


図-2 計算フロー

表－1 計算パラメータ

パラメータ	設定値	設定根拠	
主として活動セグメントの運動に関するもの	傾斜角	地質調査結果等に基づく	地質調査で不明なものは幅を持たせて設定
	広域応力場の圧縮軸の向き	90°（東西方向）～120°（東西方向から時計回りに30°）	土木学会津波評価技術(2002)の見解に基づく
	平均変位速度	A級 → 2m/1,000年 B級 → 1m/1,000年	<ul style="list-style-type: none"> 地質調査, 文献調査による(大半がB級) 発生頻度が大きくなるようB級は上限値を設定 和布一干飯崎沖断層北部Sg及び南部Sg, 甲楽城Sg, 柳ヶ瀬断層南部SgはA級とし, 地震本部の見解を2倍(沈降側の平均変位速度が越前海岸の海成段丘堆積物の隆起速度と同じと仮定) 琵琶湖西岸断層は地震本部の見解に基づきA級
主として発生応力や破壊に関するもの	静摩擦係数	0.2, 0.4, 0.6, 0.8	地質調査では把握できないため, 幅を持たせて設定
	初期応力	0Pa～破壊のしきい値まで一様乱数で発生	地質調査では把握出来ないため, ランダムに設定
	破壊のしきい値	①活動セグメント長さ単位変位量の関係式である栗田式のすべり量に相当する ΔCFF (活動セグメント長さによって異なる) ②上記の平均値(全活動セグメントで同じ値。平均的に栗田式に相当)	地質調査では把握出来ないため, 活動セグメントに関する栗田式を基本に, ばらつきを考慮して2通り設定

表-2 活動セグメントの諸元

セグメント名	区間長(km)	活動度	隆起方向	傾斜角(°)
和布-干飯崎沖 北部	24.8	A	東	45
和布-干飯崎沖 南部	10.3	A	東	45
甲楽城	24.9	A	東	90
柳ヶ瀬 北部	14.8	B	東	90
柳ヶ瀬 南部	15.4	A	東	90
鍛冶屋～関ヶ原	29.0	B	東	90
ウツロギ峠北方	10.3	B	西	70,90
池河内	12.5	B	横ずれ	90
浦底	10.8	B	東	70,90
内池見	9.2	B	東	70,90
白木-丹生	20.0	B	東	60
C	8.8	B	東	55,60
	8.5	B	東	55,60
	8.7	B	東	60
	5.8	B	東	60
大陸棚外縁	13.7	B	東	60
B	13.4	B	東	60
	8.7	B	東	90
野坂	13.3	B	東	90
FO-B	11.2	B	西	75,90
FO-A	24.1	B	西	75,90
熊川	5.2	B	南西	90
	17.7	B	南西	90
三方	26.0	B	東	60
敦賀 北部	10.3	B	東	60,90
敦賀 南部	12.6	B	東	60,90
花折 北部	27.3	B	東	90
花折 中部	19.0	B	東	90
花折 南部	11.1	B	東	30,60
琵琶湖西岸 北部	21.6	A	西	70
琵琶湖西岸 南部	38.4	A	西	70
集福寺	9.7	B	東	90
F-17・18～F-19～F-28	10.6	B	東	60,90
F-47	6.8	B	西	60
湖北山地断層帯南東部	16.4	B	西	90
郷村	33.5	B	西	60,90
山田	32.8	B	北西	60,90
上林川	23.4	B	北西	90
	16.1		北西	90

表－3 再来期間算定結果

着目した活断層	再来期間(年間)
柳ヶ瀬断層 と ウツロギ峠北方－池河内断層	>1,000,000
柳ヶ瀬断層南部 と ウツロギ峠北方－池河内断層	約460,000
柳ヶ瀬断層南部 と ウツロギ峠北方－池河内断層南部 と 浦底－内池見断層北部	>1,000,000
浦底－内池見断層 と 敦賀断層	>1,000,000
浦底－内池見断層 と 白木－丹生断層	>1,000,000
C断層 と 白木－丹生断層	>1,000,000
C断層 と 三方断層	>1,000,000
三方断層 と 花折断層	>1,000,000
大陸棚外縁～B～野坂断層 と 敦賀断層	>1,000,000
大陸棚外縁～B～野坂断層 と 白木－丹生断層	>1,000,000
大陸棚外縁～B～野坂断層 と C断層	>1,000,000
大陸棚外縁～B～野坂断層 と 三方断層	>1,000,000
FO-A～FO-B断層 と 熊川断層	約470,000
和布－干飯崎沖～甲楽城～柳ヶ瀬～鍛冶屋～関ヶ原断層	>1,000,000
ウツロギ峠北方－池河内断層南部 と 浦底－内池見断層北部	約920,000

数値は1万年単位で切り下げ